

「ワークとライフに係るフレッシュ情報！ みんなで考えよう。働きやすい環境とライフィベントへの支援」をテーマに、2020(平成30)年2月17日(月)のランチタイム(11時30分～12時50分)に、カフェテリア爽風(1号館1階)で開催しました。15名の参加がありました。これまでの情報交換会への参加者の多くが「参加してよかった」と感想を述べてくださっており、その最も多い理由は、普段一緒に仕事をする機会が少ない先生や職員の方ととても楽しく交流ができたとのことでした。今回の参加者からも同様の感想がありました。

今回、育児等に関心のある男性教職員の会をお願いしたい、との提案を受けました。現在開催している情報交換会の対象者は、主に女性の教職員ですが、男性への参加を促してはどうかとの提案を度々受けたことから、テーマに関心のある男性教職員も参加できることを周知しています。しかし、「女性教職員・・・」という名称のために、参加し辛い状況になっているようです。「女性」という性別を限定する表現を削除してはどうかとの意見も以前出されましたことがあります。育児は女性だけの問題ではなく、「イクメン」という言葉が誕生したように、男性も責任を半分担っています。しかし、わが国の現状は、育児や介護、家事を負担する時間が欧米諸国に比べて女性の方が極めて多い状況にあります。政治家などリーダー的立場に占める女性の割合も少なく、わが国のジェンダーギャップ指数は153ヶ国中121位(2019年)であり、是正が進んでいません。この問題解決には性別を超えて多様な視点からの課題の提供や課題解決の方法を探ることが大切ですが、同じ問題でも、現在の状況下では男性と女性では抱えている課題は異なると考えられます。本学は教員採用時にポジティブアクションを導入しています。この制度は一見、不公平にも感じられますが、男女共同参画推進が一定のレベルまで達した時、ポジティブアクションの制度は無用のものとして自然消滅していくものと考えられます。そのことと同様に、男女共同参画が進み、ジェンダーギャップが是正された時、性別の区分けが付いた「女性教職員情報交換会」は名称として使用されなくなると思います。

この情報交換会を活発化させる提案がいくつかありました。議論を活発化させるために、事前に問題を提議してもらったり、実際に抱えている問題を持ち寄ってはどうかや、直接、連絡を交換しあえるシステムにしてほしい等の意見が出されました。今後取り上げてほしいテーマとして、社会的に関心が払われているSDGSがありました。



